

こちら消防

119

救急車は正しく利用

消防本部(☎83-0119)

救急車の正しい利用をお願いします

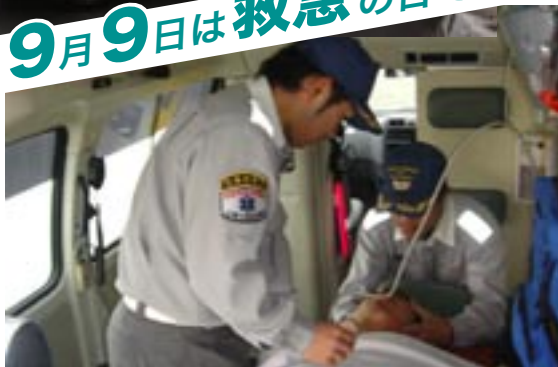
市内には、急病や事故に備え、現在4台の救急車が配備されています。しかし、近年の著しい救急件数の増加により、時には同時に全ての救急車が出動するなど、救急車がすぐに対応できない状況も発生しています。

軽い病気やケガ、病院が診てくれないからという理由で救急車を利用すると、命に関わる病気や重傷事故への対応が遅れることにもなりかねません。市民のみさんの正しい救急車の利用をお願いします。

また、消防では、救急病院に関する情報も提供していますので、救急病院をお探しの場合など、通信指令室(119受付担当 ☎83-0232)までお問い合わせください。



9月9日は救急の日です



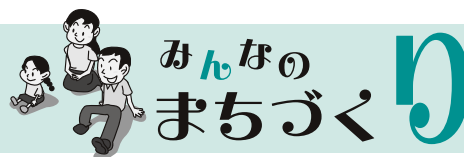
ひとひと 女と男の21世紀

「家庭と社会 支える男女のヤジロベー」

タイトルにあるこの一行詩は「第9回^{ひとひと}女と男の一行詩」の最優秀賞作品です。作者は「男女は平等、仕事や生活の中で傾いたり、揺れたりしながらも、平衡を保っていくという思いをヤジロベーに例えた」と話されています。

少子・高齢化が進展し、社会の担い手が不足することが懸念されているこれからの社会では、男女が仕事にも家庭生活にもバランスよく参画でき、互いに支え合う環境づくりが大切になってきます。実際に、男女の働き方や家庭生活へのかかわり方は、近年、大きく変わってきました。今では、共働きが片働き世帯数を上回るとともに、「女性は子どもができて働き続けた方がよい」と考える人の割合が、男女ともに最も高くなっています。

今年で9回目となる「女と男の一行詩」でも「家事育児 励む男女に格差なし あなたも主役 私も主役」「次はボク 育児休暇を取る番だ」「育休の取れる会社の株上がる」など、家庭や社会における男女の協働をテーマにしたたくさんの作品が寄せられました。こうした一行詩に込められた想いを実現させるには、個人の意識改革はもちろんのこと、職場においても仕事と家庭の両立支援や働き方の見直しが進められる必要があります。職場でも家庭でも、男女のヤジロベーがバランスを保てるような社会のあり方が今強く求められています。 **市民活動推進課 (☎82-1134)**



⑩ 行政改革大綱の素案を公表します

地方分権の推進、住民ニーズの多様化をはじめとした社会情勢の大きな変化に対応するため、本市では「市民が主役のまちづくり」の実現に向けた仕組みづくりに努めてきました。しかしその一方で、市民のみなさんもご承知のとおり、本市の財政問題は年々その深刻さを増しており、これまでも、市有財産の売却や一部事業の縮小・廃止など「歳入の確保」と「歳出の抑制」に向けた様々な取組みを行ってきたにもかかわらず、財政難という問題が今後のまちづくりに大きな影を落としているのが実情です。

新市誕生から2年が経過した今、財政の再建を果たしつつ、これからの分権型社会に求められる「自立と協働」を旨とする新しいまちづくりを更に押し進めるためには、合併から生まれるメリットを最大限に活かしながら、これまで以上に抜本的で強力な行政改革を進めなくてはなりません。

こうした中で、本市が取り組む行政改革の基本理念として、現在、策定作業が大詰めを迎えているのが「行政改革大綱」です。「効率的な行政システムの確立」と「市民本位のまちづくり」の実現に向けた指針となるこの大綱は、近日、詳細な実施計画である「アクションプラン」とともにその素案を公表し、パブリックコメントにより、広く市民のみなさんからご意見を募集する予定です。

行政改革課 (☎82-1135)